

5 自由意見（抜粋）

あなたが、家庭や社会の中で感じている男女の役割や生活などについて男女共同参画の視点からご意見などご自由にお書きください。

（1）男女共同参画意識の浸透

- 「男女の役割」という言葉自体が区別されている。家庭のことはできる人がその仕事をしたら良いと思います。（男性、75 歳以上）
- どちらかではなく、男女共に考え方を見直すべきだと思う。（女性、50～54 歳）
- 私は昭和 33 年生まれです。私が生まれ育った時代は、男女共同参画には程遠く、男らしさ、女らしさを求められました。それが当たり前の時代であったように思います。長男は昭和 61 年生まれですが、中学生の時に男子も家庭科が必修科目となり、慣れないお料理やお裁縫に奮闘している姿を見て、時代も移り変わっていくのだなとしみじみ感じたものでした。あれから約 20 年。今や女性も社会に出て働くのが当たり前の時代となりました。男女の能力差は、体力を除けば全くないと思います。個々の能力を存分に発揮して、安心して働くことのできる社会に成長して行ってもらいたいと願っております。（女性、60～64 歳）
- 最近の女性は昔の女性に比べて、社会進出に積極的になってきているので、さほど心配していない。私のような高齢者がもっと理解を示していかなければならない。（男性、75 歳以上）
- 男女共同参画推進の考え方は理解している。女性は妊娠、出産ということを行う事によって、男性と同じようにはできないことがある。できる人が、できる時に出来るだけの事を行う。経済的、時間的に余裕のある人が、他者に対して優しさが生まれ、ハラスメントもなくなり豊かな生活が送れると思う。（女性、50～54 歳）
- 男性には男性の、女性には女性の役割が、得意・不得意があるのでお互いの得意なところを頑張って補えばいいと思います。男女差別をなくすと言うなら、力仕事なども女性には行なってもらいたい。（男性、30～34 歳）
- 個人差はあるが、男性と女性には身体的な違いがあり、思考についても違いはあると思うので、優劣で考えるのではなく、違いとして男女が尊重し合える社会が望ましいと思う。（女性、40～44 歳）

（2）男女共同参画の基本的な考え方を大切にした教育の推進・充実

- 男女に関係なく、お互いに必要としていることを小さい頃から学校で教育してほしい。（女性、75 歳以上）
- 現状の価値観が変わるような、子どもの時からの教育。男女の違いを認め、尊重し合える意識を持てるような性教育。（女性、40～44 歳）
- 制度があれば使えるというものではない。意識は簡単には変わらない。子どもの頃から男らしく、女らしくと育てられてきて、大人になって知識も経験もない人が急に家庭のことができないのは当たり前のことだと思います。子ども達には男女のしぼりなく、社会の中でも家庭の中でも、役割を持って働くことのやりがいや、楽しさを感じられる教育をしていただきたいと思います。（女性、40～44 歳）
- DVやハラスメントなどは、男性社会の流れというよりも人間としての基本的な教育がなされていない結果ではないでしょうか。理想かもしれませんが、思いやる心、感謝する心、それを行動に移せる自立した強い心を学べるような教育こそDV及び差別のない、より良い社会になるのではないかと思います。（女性、55～59 歳）

（3）働く場における男女共同参画の推進

- 同じ仕事をしていて、年齢によって給料に差があるのは納得いかない。（女性、70～74 歳）
- 男女平等とは言いますが、職種などでは女性向きや男性向きはあると思います。（女性、55～59 歳）
- 過去 30 年、賃金が欧米諸国に比べて上がっていないと言われている。現在の日本は技術立国でもない。家族や社会においては男女協力して生産性を上げない限り、世界から取り残されることになるであろう。（男性、65～69 歳）
- 男女とも長時間労働の改善を進めることが大切だと思います。（女性、60～64 歳）
- 私は一昨年、定年退職となり今は隠居生活をしております。風呂を掃除したり、部屋の掃除や食器洗

い、たまには食事の支度をしております。これまでの妻の苦勞を知りました。多くの男性はこのことはわかっていても、知ろうとはしない人が多いのではないかと思います。会社や企業内で、このことを研修や勉強する事は大変難しいと思います。行政の中で研修日程を組み、企業の協力を得て勉強会を実施したらいかがでしょうか。(男性、60～64 歳)

●賃金においても男女間で差があることが理解できない。(男性、30～34 歳)

●能力が十分であれば、男性・女性に関係なく必要なポストを与えるべきと考える。(男性、30～34 歳)

(4) ワーク・ライフ・バランスの推進

●30 年以上前、子育てと仕事の両立をしていた主婦です。当時は、家事のすべては主婦が行い、夫は仕事のみでした。私は正規職員で給料も夫より多かったのですが、家事全般やるのが当然だという考えで、現在とは全く違っていました。息子は仕事も家事も育児も積極的にやり、主婦の立場を理解しています。今後はこのような考え方が、当たり前の中になっていくと思います。(女性、65～69 歳)

●男女が精神的にも経済的にも自立し、共に協力し合って家庭を作っていくのが良いと思う。男の人は、女性がスーパーマンだと思っているのではないかと思います。家事も子育ても、自分の世話まで妻に任せっきりで、その上介護までやって当たり前。そして仕事もして、給料まで当てにされて女性はヘトヘトです。専業主婦でさえ大変なのに、今時は働くのが当たり前です。不公平だと思っています。(女性、70～74 歳)

●男性が仕事、女性が家事・育児を担当するという今までの考え方は、個人的には理想だと思います。他方で、男性が家事・育児に積極的に関われるように社会制度が充実されていれば選択肢が増えて、ワークライフバランスが達成しやすくなるのではないかと思います。そのためには、女性を管理職に積極的に登用し、発言力を高め活発な議論をしていただきたい。(男性、50～54 歳)

●日、祝日に仕事が休めないで、同じ会社勤めの夫婦には子どもを見てくれる人がいない。結局、どちらかが辞めるしかないで自然と母親が辞めるようになる。(女性、40～44 歳)

●結婚をして子どもを出産しても、育児や家事に忙殺されて男性と同じように働ける社会にはほど遠いと思います。(女性、60～64 歳)

(5) 家庭や地域における男女共同参画の推進

●自分の母親のように、主人に服従するのが当たり前として育ち、子どもが大きくなりだした頃、友人に「そこまでしなくていいんじゃない!」と助言を受け、少しずつ変えていきました。今では家事も手伝ってくれるようになりました。母親の後ろ姿が、子どもにどれだけ影響を与えるかをつくづく思いました。子育ては夫婦ふたりでするもので、男女関係なく相談していけるように女性の立場をもっと見直してほしいと思います。(女性、70～74 歳)

●町内会や自治会の役員は定年を決めて、定期的に入れ替えた方が新鮮味があって良いと思う。(女性、70～74 歳)

●人間形成に大切な 15 歳までは、母親が家庭にいて子どもを見守っていくのが大切だと思う。(女性、75 歳以上)

●男性には定年があります。女性の家庭内での仕事も終わりがあってほしい。自分の人生をもっともっと楽しみたい!(女性、70～74 歳)

●育児サークルで、お父さんが集まる場や、夫婦揃って集まる場があれば良いと思う。(女性、30～34 歳)

●家庭は大家族から核家族でコミュニティは減少し、生活環境も社会の流れとともに産業の発展を優先して、人々の生活は後回しになったような気がする。男女の立場も大きく変化したと思う。過去の男女のあり方を参考にし、共同参画の推進を図って欲しい。(男性、70～74 歳)

(6) 方針決定過程への女性の参画の推進

●たとえマイノリティであっても、良いと感じる方向に行動している人は優遇されるべきであり、それなりに意見を採用すべき。(男性、60～64 歳)

●若い世代になればなるほど、男女差別やLGBTの理解は進んでいると思う。だけど社会のルールを決めているのは政治家であり、その多くは高齢者のため、若い世代が投票にいく仕組みづくりが大切だと思う。(男性、35～39 歳)

(7) 生涯を通じた男女の健康と自立の支援

- 娘がLGBTだとカミングアウトされても驚きませんでした。みんな他人事だと思っているかもしれませんが、案外身近にあるものだと思います。(女性、65～69 歳)
- LGBTのカミングアウトも勇気のいることでしょう。高齢者にはなかなか受け入れることはできないと思います。偏見を無くすことが大事です。(女性、55～59 歳)
- たとえマイノリティであっても、良いと感じる方向に行動している人は優遇されるべきであり、それなりに意見を採用すべき。(男性、60～64 歳)
- 男女共同参画の男女の定義は、多様な捉え方に変化していつているように感じる。男女というくくりで男女共同参画と考えて行くより、いろんな性を対象に考えるとしたら、誰にとっても置き去りにされない思いで生活していけるのではないかと思います。そういう意味でパートナーシップ宣誓制度は、希望につながると思います。また年齢を重ねることで今までできたことができなくなり、健常者とは異なる心がけで日常生活を送る事を考えると障害を持った人たちが暮らしやすい町になればいいなと思います。(女性、40～44 歳)
- 私は、男性・女性そしてLGBTQの三つのくくりで性を見ています。二つの性別よりも、三つの性別の方がお互いを、より理解できるし、見張れるからです。特にLGBTQの人達は、今からの社会にとっても必要な存在になると思います。なぜなら男女どちらの気持ちも分かるからです。ある意味、LGBTQの人たちは心が広く、受け入れる気持ちを持っています。だから彼らをのけ者にせず、廿日市市にたくさん受け入れることが、男女平等の大きな一歩だと考えます。(女性、20～24 歳)
- 男性や女性があらゆる面において平等になるのは不可能だと思う。女性には出産があるし、更年期障害もある。これは男性は経験しようもない。なので男性は女性に対し、理解と配慮をしなければならぬ。体調が良くないのに精神論や根性論を押し付けたり、セクハラまがいの声をかけないようにしてほしい。(男性、30～34 歳)

(8) 男女間の暴力の防止と被害者への支援の推進

- 若い頃DVを受けてとても傷つきました。悩みを聞いてくださった相談員の方の言葉がその時は信じられず、シェルターに行くことしかできませんでした。身近なところ、例えば心療内科などで相談できる場所があれば良いと思う。私はその後結婚し、普通の生活を送っています。(女性、50～54 歳)
- 自分の時代は、何事も我慢するのが当然の時代だった。DVにおいても、今は相談するところがあり恵まれていると思う。男女平等や男女共同参画など、考えてもらえるだけでもありがたい世の中になったと思う。(女性、60～64 歳)
- DVやハラスメントなどは、男性社会の流れというよりも人間としての基本的な教育がなされていない結果ではないでしょうか。理想かもしれませんが、思いやる心、感謝する心、それを行動に移せる自立した強い心を学べるような教育こそDV及び差別のない、より良い社会になるのではないかと思います。(女性、55～59 歳)